

ITA BANK

MiniDisclosure

ゆ フウ～...in...

感動を、シェアしたい。

取締役頭取 後藤 富一郎

ごあいさつ

皆さま方には、平素より大分銀行をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

弊行が明治26年の創立以来、当地にて地域の金融機関として営業を継続し、確固たる基盤を築くことができましたのも、ひとえに皆さま方の温かいご支援のおかげであると深く感謝申し上げます。

当期の県内経済は、4月に発生した熊本地震の影響もあり、当初は足踏み感がみられましたが、その後は緩やかながらも持ち直しの動きとなりました。個人消費は年度当初弱含みで推移しましたが、その後は底離れの兆しがみられました。生産活動は横ばい、有効求人倍率は高水準で推移しました。観光は地震直後に大きく落ち込みましたが、7月以降は「九州ふっこう割」をはじめとした各種支援策により、回復に向けた動きがみられました。一方、住宅投資は増勢が鈍化し、設備投資は弱含みとなり、公共工事は前年を下回る水準で推移しました。

このような経営環境の中で、弊行は平成28年4月よりスタートした「中期経営計画2016」の諸施策に全行を挙げて取り組んだ結果、平成28年度中間決算につきましては、50億円の黒字計上を果すことができました。

人口減少や世界的な景気後退、マイナス金利の導入による金融市場の混乱等により、弊行を取り巻く環境は日々厳しさを増しておりますが、全役職員が「地域密着化戦略」に熱中して取り組みしっかりと結果を出すことで、当行のサステナビリティ（持続可能性）を最大化してまいります。

皆さま方には、弊行の取り組みに対しまして、なお一層のご理解とご支援をたまわりますよう心からお願い申し上げます。

平成28年12月

「中期経営計画2016」スタート

「中期経営計画2016」の体系図

平成28年4月1日～平成31年3月31日(3年間)



Best Quality

「Quality」は、全役職員一人ひとりの仕事・マインドの「質」や「地域密着化戦略」の実践を通じて向上させる付加価値の「質」だけではなく、当行の企業価値やブランド力、地方創生への取り組み等の「質」も含んでいます。「中期経営計画2016」では当行の「質」を最高レベルに引き上げていきます。



地域への熱い「オモイ」を「カタチ」にするため行動し、お客さまとの共有価値を創造し続ける銀行

ビジョンは、「全役職員が「地域密着化戦略」に熱中して取り組み、長期的な取り組みを実践する中でしっかりと結果を出し、お客さまとの共有価値を創造し続けることにより、地域全体、お客さま、そして当行自身のサステナビリティ（持続可能性）を最大化する」当行の姿を表しています。



CSVの実現

※ CSV = Creating Shared Value (共有価値の創造)

当行と地域とは一体の関係にあり、地域の発展なくして当行の発展はありません。当行だけの収益力の強化を志向するのではなく、地域社会が抱える数多くの課題の解決に主体的に取り組むことによって、地域との共有価値を創造し、地域と一体となった成長、発展を目指していきます。

重要課題1

高付加価値の実現に向けた営業の実践

重要課題2

成長力と持続可能性を最大化する基盤の強化

重要課題3

情熱を持って行動する人財の育成と組織力の向上

【大前提】コンプライアンス

当行プロフィール (平成28年9月30日現在)

本店	大分市府内町3丁目4番1号	従業員数	1,687名
創立	明治26年2月1日		※出向者および嘱託、臨時職員を含んでおりません。
資本金	195億9,843万2,500円	主要勘定	預金等残高 2兆8,251億円
店舗数	95カ店(本支店・出張所)左記のほか 代理店4カ店、香港駐在員事務所、東京事務所		貸出金残高 1兆7,830億円
CD・ATM	434台		有価証券残高 1兆1,067億円
設置台数	(うち店舗外161台)		



震災から半年 別府・湯布院

元気です!



平成28年4月に発生した熊本地震から半年。甚大な被害を受けながらも、復興に向け一丸となって取り組んでいる別府・湯布院の現状とこれからについて、由布院温泉観光協会会長であり当行社外取締役も務められる桑野和泉さんと、別府および湯布院の両支店長に語っていただきました。湯布院の街歩きとともにお届けします。



田山 賢二
湯布院支店長



桑野 和泉
社外取締役
(株式会社玉の湯 代表取締役社長、
由布院温泉観光協会会長)



阿知波 孝典
執行役員別府支店長

あの日、別府・湯布院は

阿知波 別府に関しては、建物被害などは湯布院に比べると比較的軽いほうでしたが、ご存じの通り宿泊客のキャンセルが続き、直後は予約キャンセルの電話が鳴りやまず、お客さまが町から消えてしまった状況でした。その影響は大きく、観光トップシーズンを含む4~6月の宿泊施設は前年対比で35%まで落ち込みました。現在は、「九州ふっこう割」や行政の支援等でようやく9割ほどに戻ってきている感もありますが、宿泊施設を除くレジャー施設やお土産、飲食業などの消費額は6割ほどで、まだまだ戻り切れていない現状です。

田山 湯布院は建物被害がかなりひどく、風評被害等もあって皆さん大変なご苦勞をされたと伺いました。最近になってやっと湯の坪街道も賑わいを取り戻し、8割ほどは戻ってきているように感じています。

桑野 地震以前は大分県全体がとても好調だったのですが、一夜にして世界が変わりました。余震も続き収束宣言もないなかで、お客さまに「どうぞお越してください」とは言えませんでした。不安な日々が続くなか、大分銀行員の皆さんも含めたくさんの方々が応援に駆けつけてくれたことは、なによりの励みになりました。

阿知波 震災当時、私は法人営業支援部長でしたので、一刻も早く資金手当の支援をと、大分県と保証協会の協力もいただき一週間で緊急融資の3商品の取扱いをスタートさせました。一方で、被災地のお取引先のお見舞いに現地に入り、震災後いつもとまったく違う様子の別府・湯布院を見て、まずは被災地を訪れることが一番の支援になると思い、行員向けの「県内観光地応援キャンペーン」を立ち上げました。多くの人から協力を得ることができ、少しでも力になれたかなと感じています。

田山 ありがたいことに、湯布院にも本当に多くの方に来ていただきました。行員やその家族だけでなく、引退されたOB・OGや昔

の上司からも十数年ぶりに電話をいただいたりして。今でも多数のお問い合わせ、激励のご連絡をいただいています。

桑野 地域金融機関の強みをお互いに実感しあえたのがこの震災だと思います。頼りになる人が身近にいることがどんなに心強かったか。先行きが見えない状況が1週間、2週間、1ヵ月と経ったとき、どうしたものかと経営者たちは皆さん悩んでいました。そんなとき、銀行の皆さんが私たちのために走り回ってくれた。そして現状を乗り越えるだけでなく、この先どうやっていくか、将来についても皆さんのおかげでしっかりと考えられていたと思います。

復興とは、「震災前に戻ること」ではない

桑野 「九州ふっこう割」のおかげで、今夏は前年並みにお客さまにお越しいただけましたが、地元の人たちは決して安心しているわけではないんです。

田山 湯布院の経営者の皆さまは、ふっこう割はあくまでも短期間のもので、問題はその後どうするかということを常々おっしゃっていますね。

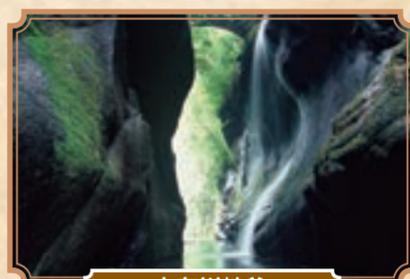
桑野 これはすごく健全なことですよ。ですが、一方でふっこう割がなかったらそこまで考えられなかったと思います。私自身、観光産業がここまで脆いものとは思っていませんでした。この産業を強くするためにはどうすればいいか、地域金融機関からの視点も今後絶対に必要になってきます。災害が多い日本ですから、なにがあってもやっていけるという仕組み・制度を作らなくてはなりません。

阿知波 震災前に戻るのは単なる復旧です。真の「復興」は震災前よりワンランクアップし、従来以上に強くなってはじめて復興だと思っています。新しい取り組みや戦略を、今だからこそやって



① 由布院駅アートホール (鼎談場所) **スタート**

湯布院エリアにはたくさんのアートギャラリーがあり、身近にアートにふれることができます。なんと、由布院駅の待合室もギャラリーなのです。電車を待ちながら作品を鑑賞できるって、なんだかステキ♪



由布川峡谷

別府市と由布市にまたがる、長さ約12kmの峡谷です。高さ15~60mの岩肌を40数条の滝が流れる美しい景観から「東洋のチロル」とも呼ばれています。水の浸食によって作り出されたなめらかな岩肌が苔生す幻想的な光景に魅了されること間違いなし!



③ 湯の坪街道

由布院駅から金鱗湖へ向かう道中にあり、旅行者が賑わいを見せるのは湯の坪街道。お土産屋はもとより、おいしいグルメやスイーツのお店が立ち並び、そぞろ歩きや食べ歩きにピッタリです。

B-speak [Pロール]



行列の絶えないロールケーキ専門店で作られる甘さ控えめのケーキ。最後の一口までおいしく食べられるよう、ひとつひとつに真心がこめられています。



ゴール

⑤ 由布岳

標高1,583mの由布岳は、双耳峰を持つ美しく荘厳な姿から「豊後富士」と呼ばれ、古くから山岳信仰の対象として崇められています。毎年5月上旬には安全祈願祭が行われ、年間を通じて県内外から多くの登山愛好家が訪れています。山頂からは別府湾やくじゅう連山、由布院盆地が望めます。



② 辻馬車

湯布院エリアを“パッカパッカ”と蹄の音を響かせて進むのは、観光用の辻馬車です。ゆっくりそぞろ歩きでの散策も魅力的ですが、馬車から眺める湯布院の街は特別ですよ!



④ 金鱗湖

明治初期の儒学者・毛利空桑が、湖で泳ぐ魚の鱗が夕日で金色に輝くのを見て「金鱗湖」と名付けたといわれています。湖底から清水と温泉が湧いていると言われ、年間を通じて水温が高いため、冬の早朝には湖面から湯気が立ち上る幻想的な光景を見ることができます。

春にはこんな風景も!



いく必要があります。実際、ふっこう割は宿泊が対象なので、それ以外の関連観光産業についてはまだまだ支援が必要な状況です。

桑野 地震直後は宿を守ることに必死でしたが、旅館にお客さまが宿泊してくださらないと、お肉屋さんもお魚屋さん豆腐屋さんクリーニング屋さん花屋さん...なにからなにまで影響が出てしまうんですね。

阿知波 今回の震災で観光産業のすそ野の広さを改めて実感しました。しかし裏を返せば、観光産業を活性化すれば、その地域に大きな経済効果が期待できるんですね。大分県全体としてこの分野に力を入れるべきだと確信できました。

田山 震災当時、私は国見支店長だったのですが、別府や湯布院に観光客がこない、その影響で国東エリアもお客さまが少なくなったように感じました。宿泊していただくと滞在時間が増え、周囲の市町村にも足を運んでくれるのですが、拠点となる別府・湯布院にそういったことがあると、他の地域も二次的に影響を受けるんです。

桑野 観光に関しては、今回の熊本地震をしっかり検証すれば、さまざまな戦略が立てられると思います。今回の地震は「観光」というものが初めてクローズアップされた地震でした。国の政策から県の経済界の動き、ふっこう割なども含め、すべてを検証すべ

きです。検証結果は、いつかくるかもしれない他のエリアでの災害にきつと役に立つものになりますから。

これからの別府・湯布院が目指す道

阿知波 風評被害は収まりつつある反面、この6ヵ月で失ったものはすぐには取り返せません。観光産業の多くは受け入れるキャパシティが決まっているため、急激な回復はできません。失われた期間の損失は、相応の時間をかけて回復していくしかないため、大分県全体でさらなる支援を続けていく必要があります。震災直後に県民の皆さんが抱いた気持ちを忘れずに、ずっと持ち続けていくことも重要だと思います。

桑野 まだ6ヵ月なんです。夏を越えて忘れがちになりますが、まだ半年。昨年箱根山の噴火から、箱根にお客さまが戻るのに1年かかったと言われていました。九州はふっこう割のおかげで一時的にお客さまが戻りましたが、現実はまだまだ厳しい。これからどうしていくかを、一緒になって考えていく必要があります。

田山 湯布院では半年が経ち、全壊に近くこれまで営業できていなかった宿が建替えて再開しようという動きが出てきています。

一からの再出発に際して、資金面だけでなくさまざまなご相談をいただくようになりました。後継者問題で悩む事業者さまや、勇気を出して新しいことにチャレンジしようとする若い経営者の方。どんなご相談に対しても、ひとつひとつ丁寧に対応していきたいと思います。

桑野 大変なことも多い一方で前向きな部分も多く、湯布院では「牛喰い絶叫大会」など、震災前に行っていたイベントは中止したりせずすべて開催しています。そうすることで安心してもらえるんです。同時に、しばらく開催していなかった「ゆふいん音楽祭」を7年ぶりに復活させました。地域の魅力を震災以前に戻すのではなく、もっとありがたい姿を、多くの方からお力をいただいたからとよりよいものを、と地域全体が考え始めたのはすごく素直なことだと思います。今回の音楽祭は、子どもの頃に音楽祭を経験した若い世代が中心になってやっています。世代交代や継承がとても難しいなかで、DNAやスピリッツの部分でつながっていく。そういったことが、震災の後たくさん生まれているように感じます。

阿知波 復興に向けて、私たち地域金融機関がやれることはまだまだたくさんあるはずなんです。大変なことも多いと思いますが、やるからにはワンランクでもツーランクでもアップさせたい。とてもワクワクしています。

田山 今回思ったことは、皆が一致団結すればとても大きなパワーになるということ。そのパワーを地域に還元して、まちをもっともっと元気していきたい。地域のお客さまたちの元気に負けなように、私たちも頑張っていきます。

(平成28年10月19日収録)



オトナの男が夢中になる
Vehicle



由布院駅長が教える

「ゆふいんの森号」フотスポット



博多～別府間を結ぶ、湯布院の魅力を感じたリゾート特急「ゆふいんの森」。イチオシの撮影スポットは「南由布駅」です。天気の良い日には線路上に由布岳が見渡せ、雄大な由布岳をバックに走る列車との構図に腕が鳴りますよ。春には線路沿いに桜が咲き誇るなど、季節ごとに表情を変える点もおおすすめです。撮影の際は安全面に十分注意し、他のお客さまのご迷惑とならないようご配慮をお願いします。

[DATA]
◆住所/大分県由布市湯布院町大字中川1182-3 (南由布駅)

オトナの男が浸る
Music

Tan's bar

～「WE16Aホーン」で重厚な音楽を楽しむ～



このスピーカーは1930年代に「カーネギーホール」で使用されていたアメリカ製劇場用スピーカー「WE16Aホーン」。



明治中期の古民家を移築再生したラウンジの中央に、異形の巨大な真っ赤なスピーカーが鎮座している。ティータイムはクラシック、パーティタイムはJAZZを中心に、ヴィンテージオーディオが奏でる重厚な音楽を楽しむことができる。高い天井やヴィンテージ家具、窓の外の緑が空間に色を添える。

[DATA]
◆住所/大分県由布市湯布院町川上1264-2
◆TEL/0977-84-5000

オトナの男が楽しむ
Bar Time

Bar Stir

～静かなひとときに酔う、一日の終わり～



昼間賑わう湯布院も日が暮れると静寂に包まれる。静けさを取り戻した街並みのなか、「Bar Stir」の看板に明かりが灯る。カクテル用語から名付けられた店名「Stir(ステア)」には、地元のお客さまと観光客との交流の場となるようにという願いが込められている。

店内は樹齢300年のニレケヤキのカウンターが出迎える、木のぬくもりとやわらかな灯りに包まれた上質な空間にゆっくりとした時間が流れる。

[DATA]
◆住所/大分県由布市湯布院町川上新町1 協栄ビル2F
◆TEL/0977-85-3935



九州自動車歴史館

～あの名車たちが今もここで生きている～



ランボルギーニやトヨタスポーツ800といったスポーツカーをはじめ、アメリカンドリームを象徴するキャデラックやリムジン、自動車文化を伝えてくれるクラシックカーなど国内外の名車を展示。展示車の多くは、映画やドラマなどで活躍した実際の名車である。シトロンの雰囲気あふれる館内は年配の方なら懐かしさを、若い方なら未来を感じることができる。



[DATA]
◆住所/大分県由布市湯布院町川上1539-1
◆TEL/0977-84-3909

俺の湯布院



業績ハイライト (中間決算のご報告と業績予想)

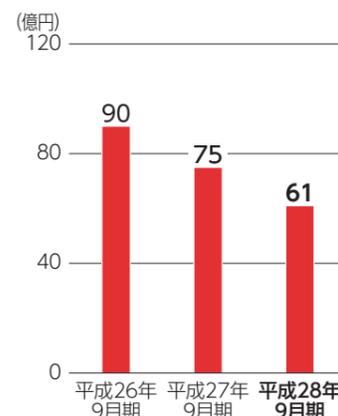
平成28年9月期の経常収益は、貸出金利息、有価証券利息および株式等売却益が減少したことにより、前年同期に比べ減少しました。一方、経常費用は、外国為替売買損等の増加によるその他業務費用の増加および営業経費の増加により増加しました。この結果、経常利益は前年同期比14億円減少し、61億円となりました。中間純利益は、経常利益の減少により前年同期比4億円減少し、50億円となりました。

平成28年度の業績につきましては、経常収益477億円、経常利益94億円、当期純利益65億円を予想しております。なお、業績予想の前提として、日経平均株価を14,000～18,000円、与信費用を△1億円と見込んでおります。

主要な指標の推移

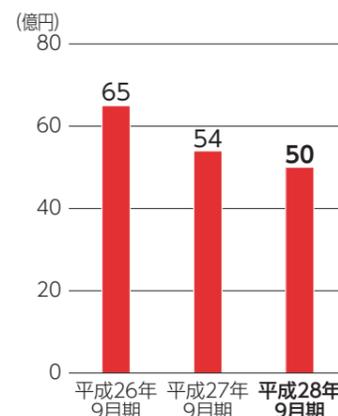
● 経常利益

61 億円
(前年同期比 -14億円)



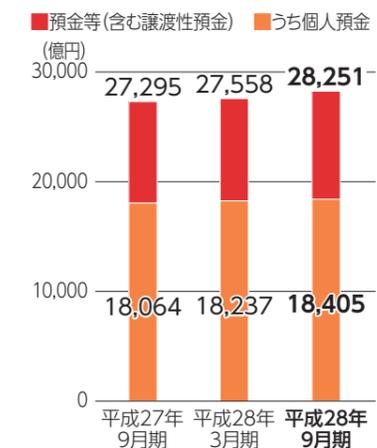
● 中間純利益

50 億円
(前年同期比 -4億円)



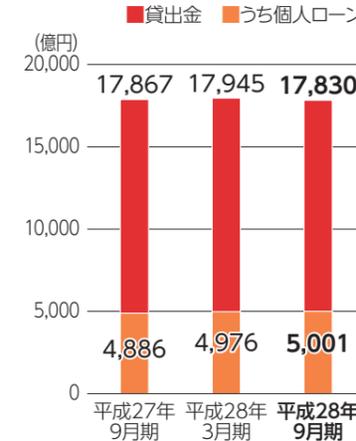
● 預金等

2兆 8,251 億円
(前年度末比 +693億円)



● 貸出金

1兆 7,830 億円
(前年度末比 -115億円)



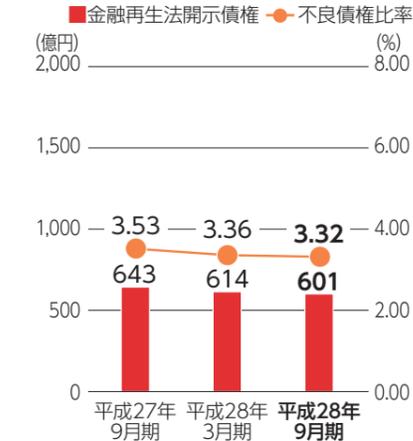
● 自己資本比率

10.36 %
(前年度末比 +0.15%)



● 不良債権比率

3.32 %
(前年度末比 -0.04%)



格付け

当行 A+
見通し・安定的

AAA	AA	A	BBB	BB	B	CCC	CC	C	D
-----	----	---	-----	----	---	-----	----	---	---

当行は、平成12年9月29日付で日本格付研究所(JCR)の長期優先債務格付「A+ (債務履行の確実性は高い)」を取得し、その後も格付「A+」を継続取得しています。

※長期優先債務格付
長期優先債務格付とは、具体的な債券を特定せず、その銀行が現在背負っている無担保の債務または将来背負うであろう不特定の無担保債務を包括的に捉えて、債務履行能力を格付したものです。

中間(連結)財務諸表

中間連結貸借対照表 (単位:百万円)
(平成28年9月30日現在)

科目	金額	科目	金額
資産の部		負債の部	
現金預け金	165,053	預金	2,589,305
コールローン及び買入手形	12,134	譲渡性預金	223,624
買入金銭債権	8,016	コールマネー及び売渡手形	40,448
商品有価証券	25	債券貸借取引受入担保金	38,670
金銭の信託	4,753	借入金	29,854
有価証券	1,102,675	外国為替	14
貸出金	1,776,613	新株予約権付社債	10,112
外国為替	4,078	その他負債	40,029
リース債権及びリース投資資産	16,798	賞与引当金	1,022
その他資産	67,881	退職給付に係る負債	7,919
有形固定資産	34,774	役員退職慰労引当金	46
無形固定資産	3,355	睡眠預金払戻損失引当金	1,154
退職給付に係る資産	8,478	繰延税金負債	1,943
繰延税金資産	1,071	再評価に係る繰延税金負債	4,739
支払承諾見返	16,819	支払承諾	16,819
貸倒引当金	△29,256	負債の部合計	3,005,703
資産の部合計	3,193,274	純資産の部	
		資本金	19,598
		資本剰余金	13,799
		利益剰余金	125,422
		自己株式	△2,346
		株主資本合計	156,473
		その他有価証券評価差額金	26,339
		繰延ヘッジ損益	△964
		土地再評価差額金	9,094
		退職給付に係る調整累計額	△3,587
		その他の包括利益累計額合計	30,881
		新株予約権	163
		非支配株主持分	51
		純資産の部合計	187,570
		負債及び純資産の部合計	3,193,274

中間貸借対照表 (単位:百万円)
(平成28年9月30日現在)

科目	金額	科目	金額
資産の部		負債の部	
現金預け金	164,943	預金	2,601,513
コールローン	12,134	譲渡性預金	223,624
買入金銭債権	8,016	コールマネー	40,448
商品有価証券	25	債券貸借取引受入担保金	38,670
金銭の信託	4,753	借入金	22,042
有価証券	1,106,735	外国為替	14
貸出金	1,783,083	新株予約権付社債	10,112
外国為替	4,078	その他負債	32,726
その他資産	60,228	未払法人税等	1,525
その他の資産	60,228	リース債務	332
有形固定資産	33,055	資産除去債務	249
無形固定資産	3,246	その他の負債	30,619
前払年金費用	12,078	賞与引当金	920
支払承諾見返	16,792	退職給付引当金	6,140
貸倒引当金	△27,020	睡眠預金払戻損失引当金	1,154
資産の部合計	3,182,151	繰延税金負債	3,514
		再評価に係る繰延税金負債	4,739
		支払承諾	16,792
		負債の部合計	3,002,413
		純資産の部	
		資本金	19,598
		資本剰余金	10,613
		資本準備金	10,582
		その他資本剰余金	31
		利益剰余金	117,263
		利益準備金	10,431
		その他利益剰余金	106,832
		固定資産圧縮積立金	112
		別途積立金	99,830
		繰越利益剰余金	6,890
		自己株式	△2,346
		株主資本合計	145,128
		その他有価証券評価差額金	26,315
		繰延ヘッジ損益	△964
		土地再評価差額金	9,094
		評価・換算差額等合計	34,445
		新株予約権	163
		純資産の部合計	179,738
		負債及び純資産の部合計	3,182,151

中間連結損益計算書 (単位:百万円)
(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)

科目	金額
経常収益	29,512
資金運用収益	18,329
(うち貸出金利息)	11,862
(うち有価証券利息配当金)	6,317
役務取引等収益	4,276
その他業務収益	4,955
その他経常収益	1,950
経常費用	22,868
資金調達費用	693
(うち預金利息)	295
役務取引等費用	822
その他業務費用	4,961
営業経費	16,225
その他経常費用	164
経常利益	6,644
特別利益	20
固定資産処分益	20
特別損失	21
固定資産処分損	21
税金等調整前中間純利益	6,643
法人税、住民税及び事業税	2,035
法人税等調整額	△666
法人税等合計	1,368
中間純利益	5,274
非支配株主に帰属する中間純利益	1
親会社株主に帰属する中間純利益	5,273

中間損益計算書 (単位:百万円)
(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)

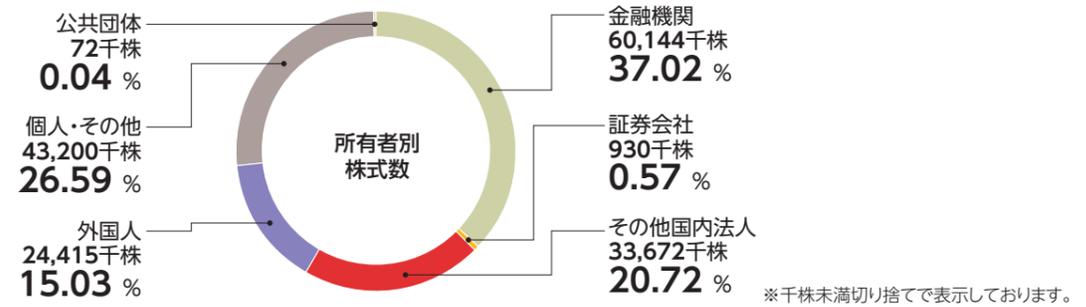
科目	金額
経常収益	24,705
資金運用収益	18,256
(うち貸出金利息)	11,637
(うち有価証券利息配当金)	6,469
役務取引等収益	3,934
その他業務収益	500
その他経常収益	2,014
経常費用	18,539
資金調達費用	674
(うち預金利息)	296
役務取引等費用	1,065
その他業務費用	1,111
営業経費	15,550
その他経常費用	137
経常利益	6,166
特別利益	20
特別損失	21
税引前中間純利益	6,165
法人税、住民税及び事業税	1,822
法人税等調整額	△677
法人税等合計	1,144
中間純利益	5,020

株主の皆さまへ

株式の状況 (平成28年9月30日現在)

発行済株式総数 **162,436**千株
株主数 **7,509**名

株式分布状況



株式についてのご案内

- **事業年度**
毎年4月1日から翌年3月31日までといたします。
- **定時株主総会**
毎決算日の翌日から3ヵ月以内に開催いたします。
- **剰余金の配当および中間配当**
剰余金の配当は毎年3月31日現在の株主名簿に記録された株主または登録株式質権者に対し、定時株主総会終了後お支払いいたします。中間配当を行う場合は、取締役会の決議によって、毎年9月30日現在の株主名簿に記録された株主または登録株式質権者に対し、お支払いいたします。なお、お取引の金融機関預金口座振込をご指定くださいますとお受取りが速くて便利です。
- **定時株主総会の基準日**
毎年3月31日といたします。その他必要があるときはあらかじめ公告いたします。
- **公告方法**
電子公告により行います。当行ホームページアドレス <http://www.oitabank.co.jp/company/koukoku.html> ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、大分合同新聞および日本経済新聞に掲載いたします。
- **株主名簿管理人**
東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号
日本証券代行株式会社
- **同事務取扱場所**
福岡県福岡市中央区天神二丁目14番2号
日本証券代行株式会社 福岡支店
(郵便物送付先/お問合せ先)
〒168-8620 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
日本証券代行株式会社 代理人部
電話 0120-707-843(フリーダイヤル)
- **各種手続のお申出先**
・未払配当金のお支払いについては、株主名簿管理人にお申出ください。
・住所変更、単元未満株式の買取・買増、配当金受取方法の指定等証券会社をご利用の株主様は、お取引の証券会社へお申出ください。
証券会社をご利用でない株主様は、特別口座の口座管理機関である日本証券代行株式会社へお申出ください。

平成28年熊本地震に対する当行の取り組み

地域密着化戦略の実践に取り組む当行としましては、4月に発生した平成28年熊本地震により影響を受けられましたお客さまに対し、丁寧かつ迅速に対応することはもちろん、復興に向け全力で支援を続けてまいります。

■「特別相談窓口」の設置

震災により被災されましたお客さまからのご相談に迅速に対応するため、全営業店・ビジネスサポートセンター(宗麟館3階)に「ご相談窓口」を設置しております。最寄りの営業店の「ご相談窓口」、またはダイレクトセンター(0120-849-070)までご連絡ください。

	店頭での相談	電話による相談
設置場所	お取引店もしくは最寄りの営業店 ビジネスサポートセンター(宗麟館3階)	ダイレクトセンター (0120-849-070)
受付時間	平日 9:00~15:00 *ビジネスサポートセンターは17:00まで	平日 9:00~17:00 土日 10:00~17:00

<ご相談内容>

- ・事業資金にかかわる資金調達・返済条件変更等について
- ・個人ローンにかかわる新規貸出・返済条件変更等について
- ・預金等その他のお取引に関するご相談

■ 震災により直接的または間接的に影響を受けられた事業者の皆さまを支援するための、「**観光応援ファンド(震災復興サポート)**」および「**地域産業振興資金(県制度資金)**」の取扱い。

■ 被災された個人のお客さまを支援するための、「**災害復旧支援ローン**」の取扱いおよび住宅ローンの金利等の優遇の取扱い。

■ 被災者支援や被災地の復興に役立てていただくための義援金として、当行グループより大分県へ3,000万円を寄付しました。

■ 当行の行員有志による募金活動やボランティアの参加、行員が率先して県内観光地を訪問しようという「県内観光地応援キャンペーン」などを実施しました。

優



勝

天皇賜杯 第71回 全日本軟式野球大会



50周年
2年連続
9回目優勝



大分銀行軟式野球部「天皇賜杯 全日本軟式野球大会」

大分銀行野球部のメンバーは、日頃から仕事と練習を両立しながら「天皇賜杯制覇」を目標にチーム一丸となって練習に励んできました。今回の全国優勝のニュースは私たちだけでなく、県内のたくさんの方にも「元気」をお届けすることができ、祝辞や感謝のお言葉を多数頂戴しました。業務を午前で切り上げて練習する「野球優先」の企業も多いなか、当行野球部は「業務優先」。限られた時間を効率的に使い仕事と練習を両立させており、このような環境下での全国優勝こそ大きな価値があると大分銀行は考えています。



半世紀ぶりに
全国No.1の座を勝ちとりました!!!
第21回大会 初優勝
洗練された試合はこびで
初優勝を飾った
当時の野球部メンバー
昭和41年8月24日



感動を、シェアしたい。
大分銀行

編集発行／平成28年12月 株式会社 大分銀行 総合企画部広報グループ
〒870-0021 大分市府内町3丁目4番1号 TEL. 097-534-1111
ホームページアドレス <http://www.oitabank.co.jp/>